

佐藤成広作 「盗み」

- 効果音 (体育の授業後、生徒、教室に戻ってくる。ドアの開く音。生徒のギャ)
- 前田二郎 チキショー、あのキーパーもよく守りやがんなあ。それにしても、もう少し左に蹴れば入ったのになあ。
- 和夫 ほんと。あれが入ったらまだ分からなかったぜ。
- 二郎 (カバンを開ける音) あれ、おかしいな。カバンを開けておいたっけかな？ (カバンの中を調べる) おい、おれの財布がねえよ。
- 和夫 またうちに置いてきたんじゃねえの？よく捜してみな。
- 二郎 いや、昼に牛乳飲んだ時は、3,500 円入りの財布がちゃんとあったんだよ。
- 和夫 ほんとか？ じゃあ今度はお前がやられたのか？
- ナレーション この学校では、今年度に入って急に盗難が増えてきたのです。このことでは、先生方も憂慮していたようです。
- 丸山先生 お前らも知ってると思うが、今日、前田の財布がなくなった。新学期に入って、財布を始め、傘、自転車、時計、中には 18 金の指輪をなくしたやつもいる。(笑い)お前らも、自分の物の管理は自分でしっかりしてくれ。学校側としても、今回の前田の事件は徹底的に調査するつもりだ。
- 影の声(犯人) そう簡単に見つかるものか。
- 音楽 (ブリッジ)
- 先生 その前田の机はそのままにしておいてくれ。そして、今までに前田のカバンに触ったことのある人は、ここに名前を書いて、指紋を押してっくれ。
- ナレーション いよいよ本格的捜査の開始です。化学の丸山先生が鑑識課のようです。白い粉をかけて、慎重に指紋検出をしています。
- 朋子 丸山先生、すてき。見直しちゃったわ。
- 先生 こら！ ふざけるんじゃない。
- 朋子 はーい。
- 先生 みんな、ここから先には入らないでくれ。それから前田、盗まれた財布の形とか、色とか、中身とかを教えてくれ。
- 二郎 茶色の革の札入れなんです、それは父が去年オーストラリアへ行った時のお土産ものなんです。(FO)
- 影の声 (FI)「そして中に大場久美子の写真が入っているんです」、か。中身は 3,542 円。現代高校生の財布の中身としては、上等のほうかな。こんなのは、カバンの奥のほうにしまっておくもんなんだよ。カバンを開けてすぐのところに置いておくんて、まるで「どうぞ取って使ってください」って言ってるのとおんなじじゃないか。あんな風に置いておくのがいけないの。おれは、いけなくないの。それに、あんな化学の丸山なんかに見つかるもんかい。あいつは実験室で火遊びをしてればいいの。絶対に見つかるもんかい。おれは完全犯罪をすることで有名なんだぜ。
- ナレーション 影の声はずいぶん大きなことを言っていますが、本当に大丈夫なんでしょうか？ 捜査のほうも順調に進んでいるようです。

先生 この指紋は加藤ので、こっちは鈴木のか。あと、この3人の指紋が分からないんだよ。

洋子 あのを、丸山先生…。

先生 なんだい？

洋子 その3人の分からない指紋のうち、1人はわたしだと思います。

先生 なんだった？ そこに押してみなさい。…うん、同一人物のものらしい。それで君はいつ、このカバンを触ったんだね？

洋子 あ…。

先生 いつなんだい？

洋子 わたし、前田君にラブレター書いたんです。それを前田君のカバンの中へ入れようと思って。つい3日前です。でも入れられなくて。前田君、これ、読んでね。さようなら。(走り去る音)

朋子 洋子が前田君のこと好きだったというのは本当です、先生。

先生 そうか。それじゃあ、あと2人の指紋だな。クラス全員のを採ってもらうか。どっちにしても今日はもう遅いから、これでやめよう。みんな、ご苦労さん。

全員 (口々に)さようなら。

二郎 先生、僕のお金は一体どうなるんですか？ あれでUKのコンサートに行くつもりだったのに。

先生 ほかの先生方ともよく相談してみるが、お金のことはあきらめた方がいいと思う。

二郎 なんですか？

先生 いいか、盗まれたのはお前だけじゃないんだ。弁償するにしても、相当な額になる。それを一体どこから出せばいいんだ？ PTA会費とか、生徒会費からは出せんだろう。

二郎 どうして僕だけこんな目に遭わなきゃならないんですか？ クソ犯人の野郎め。見つけたらただじゃおかないぞ。…そうだ、先生、いいことがあります！ 僕に、来週の体育の時間に教室に張り込ませてください。必ず犯人を捕まえて見せますから。

先生 うーむ。よし、いいだろう。来週だけだぞ。体育の先生には、おれからよく言っておくから。

二郎 それじゃ先生、さようなら。

先生 ああ、さようなら。あまり気を落とすなよ。

ナレーション そういうわけで、次の週の体育の時間、前田君ほか数名は、腹痛はらいたということで、体育を合法的にサボって、教室で張り込んでいます。

二郎 おい、いいか、怪しいやつが来てもすぐ飛びかかるんじゃないぞ。何かを盗んだら、その瞬間、みんなで飛びかかるんだ。いいな？

一同 おう！

ナレーション 現行犯逮捕なんか、なかなか考えたものです。さて、もうすぐ体育の時間も終わりますが…。

効果音 (終業のチャイム)

二郎 いよいよだな。

和夫 ああ。しー！ だれか来たぞ。

効果音 (足音。ドアを開ける音。足音。カバンを開けて探す音。財布の音)

一同 「わー！」「こらー！」「貴様！」

効果音 (取っ組み合いの音)

和夫 お、お前は守！

二郎 和夫、お前、こいつ知ってるのか？

和夫 ああ。1年の時 同じクラスだったんだ。守！ お前がやってたのか？

二郎 道理でクラス全員の指紋を採っても該当者がいないわけだ。この野郎！

和夫 おい、もうやめろ。守、放課後、少し話をしよう。

二郎 おい、帰しちゃっていいのか？

和夫 構わんさ。もうおれたちに顔見られちゃってるんだし。それよりみんな、このことをだれにも話さないでくれ。おれに考えがある。

二郎 お前の言うことだ。信用しよう。じゃあ放課後な。

ナレーション 放課後、和夫君ら犯人を知っている人たちと、犯人の守は、近くの喫茶店で話をすることになりました。

効果音・音楽 (喫茶店内)

和夫 なあ、守。本当にお前が、今までの全部やったのか？

守 ああ。おれがやったんだよ。

二郎 なんでやったんだよ？ おれの金はどうしてくれんだよ？

和夫 まあまあ、二郎、落ち着けよ。なあ、守。お前、1年の時は、目立たない存在だったけど、そんなことするようなやつじゃないと思ってた。

守 だからなんなんだよ？ 説教はたくさんだ。

二郎 なんだと？ 全然反省してねえみたいだな。そういうやつにはなあ。(守の胸ぐらをつかもうとする。)

和夫 おい、やめろ。ここは学校じゃないんだぞ。(守に)お前、どうして盗みなんかしたんだ？

守 だれもおれのことなんか気にも留めてくれないじゃないか。おれは勉強ができるわけでもないし、クラブにも入ってない。人とも付き合うのが下手だから、友達もいない。みんなは、おれがクラスにいようがいまいが、そんなことはお構いなしさ。だから、おれがいることを分からせるために、やったのさ。そうでもしなきゃ、だれもおれのことを本気になって考えてくれるやつなんかいねえじゃねえか。

和夫 そんなことはないよ。どんなときでも守のことを愛してくださっているお方がいるんだよ。

守 え？

和夫 神様はね、すべての人を愛しておられるんだ。

二郎 ああ、お前、クリスチャンだったな。けど、こんな盗人野郎でもかい？

和夫 そうさ。それに、神様から見れば、二郎だっておれだって罪を犯した人間なんだ。

二郎 なんだって？ この盗人やろうとおんなじだって?!

和夫 二郎は人を傷つけたことはないかい？ ののしったことはないかい？

二郎 そりゃあ、一度や二度は…。

和夫 そうだろう。僕もそうさ。だけどね、神様はね、僕たち人間を愛してくださっているんだ。だから、僕たちの罪を赦すために、罪のないイエス様が十字架にかかってくださったんだよ。そのことを信じた人は、罪が赦されるんだ。

守(モノローグ) (エコー)神様…。神様がおれのことを愛している。見守っている…？ こんなことってあるんだろうか？ こんな、こんなおれでもか？

ナレーション それから彼はどうなったのか、それは皆様のご想像にお任せします。一つの事実だけお

話しましょう。その後、彼は、盗んだ金を、アルバイトをして全部返したのです。この頃の彼の顔の輝きを見れば、確かにあの時から、彼の心の中で何かが起こったことに、だれでも気づくはずです。それはなんだったのでしょうか？

あなたもぜひ聖書を読んでみてください。彼の心の秘密を知るために。そして、あなたも帰られることを知るために――。

<完>